

令和5年度 東部リハビリテーション連絡協議会 活動報告書

項目	内容	備考	
組織構成	会長：亀田 千恵（所属：九州鉄道記念病院） 副会長：林 正昭（所属：東和病院） 運営委員：15名 （他、コーディネーターとしてリハ科医1名参加） ※別紙名簿添付	会員数：49名 在会員施設数：33施設 ※R4年度に募集開始	
活動方針（テーマ）	<ul style="list-style-type: none"> 顔の見えるリハネットワークづくり 地域が求めるリハ情報の発信 多世代へ向けたリハ啓発 		
年度目標	（交流会）会員がお互い知り合うきっかけづくりをする （ST マップ作成）東部エリアの ST 在籍状況等を調査して、情報誌を作成・情報共有する		
活動実績	①運営会議（3回）		
	②部会会議等（5回）		
	③他機関（他部署）が主催する委員会や委員が出席した会議（0回）	会議名：	
	④研修会（1回）	職種：リハ専門職 内容：勉強会 場所：アシスト 21 講堂	開催日時：11月22日 開催方法：集合 参加者数：59名
	⑤交流会（1回）	職種：リハ専門職 内容：名刺交換会 場所：アシスト 21 講堂	開催日時：5月26日 開催方法：集合 参加者数：46名
	⑥講師、委員派遣（0回）	内容： 派遣先：	日時： 対象者数：
		内容： 派遣先：	日時： 対象者数：
	⑦作成物	内容：【門司区・小倉北区・小倉南区】ST マップ（情報誌） 配布先：回答者、会員施設、市内居宅ケアマネジャー 作成部数（紙の場合）：約50部 媒体：市HPに公開	
	⑧リハ協に関する相談など（0件）	主な内容（職種）：	
⑨その他の取組み	主な内容（職種）： 次年度調査に関する協議：地域資源に関する調査		
活動成果	<ul style="list-style-type: none"> 活動周知により会員数が増加した（25名→49名） 運営委員を3チーム（交流会、勉強会、調査）に分け、各々のチームで打ち合わせることで全体会議よりも活発な意見交換ができた。 作成物の広報により、リハ協の活動に興味を持ってもらうことが増加した。 		
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源調査等の活動の検討 会員の登録者目標の設定や非会員との整理 		

令和5年度 東部リハビリテーション連絡協議会運営委員会 委員名簿

	種別	名称	担当者
1	門 司	病院(急性期)	門司掖済会病院 今田 琢也 PT
2		病院(回復期)	九州鉄道記念病院 亀田 千恵 PT
3		病院(急性期)	新小文字病院 鈴木 睦 ST
4		病院(維持期)	鳥巢病院 玉野 和男 OT
5	小 倉 北	病院(回復期)	北九州中央病院 富部 由紀子 ST
6		病院(回復期)	小倉きふね病院 東 健太 PT
7		病院(急性期)	北九州市立医療センター 三島 章裕 ST
8		教育機関	九州医療整形外科・内科 リハビリテーションクリニック 永野 忍 PT
9		障害者施設	創造館 一ノ宮 成徳 PT
10		病院(回復期)	霧ヶ丘つだ病院 松尾 聡 PT 森 大地 PT
11		相談支援機関	北九州市介護ロボット等導入支援・普及促進センター 安部 千秋 OT
12		相談支援機関	福祉用具プラザ北九州 西口 瑞希 PT
13	小 倉 南	教育機関	九州栄養福祉大学 吉岡 奈々 OT
14		訪問リハ	都留内科医院 都留 孝治 PT
15		グループホーム	吉田みどりの里 山中 さやか OT
16		病院(回復期)	東和病院 林 正昭 PT
東部地域リハビリテーション支援センター		小倉リハビリテーション病院	砂川 尚也 PT
			中村 隼平 PT
事務局		地域リハビリテーション推進課	佐藤 美香 OT
			金澤 紀子 PT
		門司区保健福祉課	久富 さくら OT
		小倉南区保健福祉課	徳本 泰久 PT
		小倉北区保健福祉課	高山 富浩 OT
		小倉北区保健福祉課	岩谷 弘毅 OT

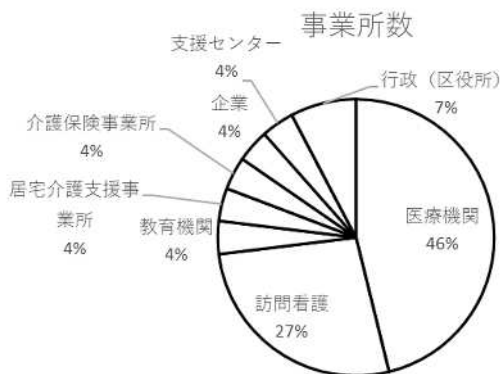
令和5年度東部リハビリテーション連絡協議会名刺交換会 まとめ

令和5年5月26日（金）19：00～20：00

アシスト21 講堂

【参加数】 (単位：人)

職種	人数
理学療法士	28
作業療法士	11
言語聴覚士	4
医師	1
MSW、相談員	1
ケアマネジャー	1
合計	46



※事務局他地域リハ課、区職員含む

【名刺交換の開催手順】

1部は事業所ごと移動し40分、時間制、2部はフリー10分の2部構成とする。

【当日スケジュール及び役割】

19：00～ 開会挨拶、手順説明（林さん）

19：07～ 名刺交換

19：57頃 感想（オブザーバー 橘医師）

20：00 閉会挨拶（亀田さん）



写真① 1部 事業所ごと名刺交換の様子



写真② 2部 フリーの名刺交換の様子

◎配布物

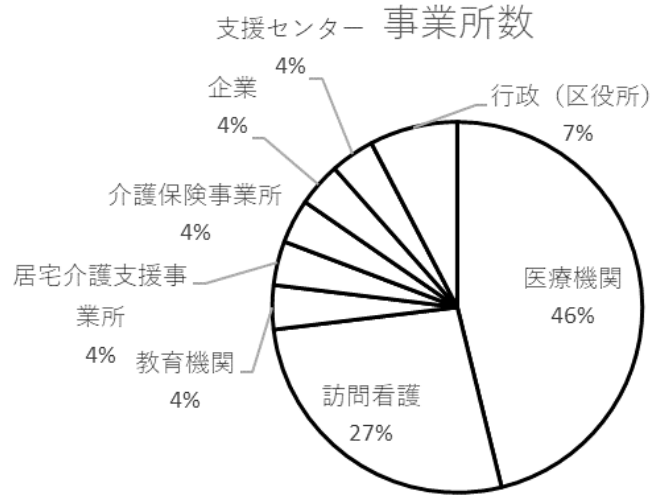
参加者名簿、東部リハ協広報チラシ、入会届、アンケート

アンケート結果

全体 回答率 42/42 (100%) ※参加者のうち事務局4名を除く

1. 事業所数

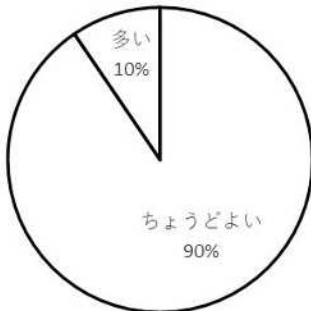
職種	事業所数
医療機関	12
訪問看護	7
教育機関	1
居宅介護支援事業所	1
介護保険事業所	1
企業	1
支援センター	1
行政（区役所）	2
合計	26



2. 名刺交換会の満足度

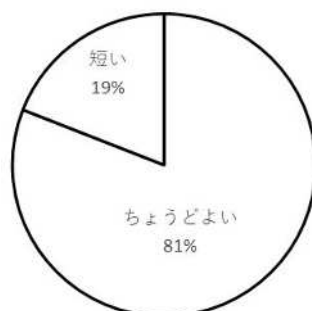
(1) 人数 (単位：人)

	回答数
ちょうどよい	38
多い	4
少ない	0



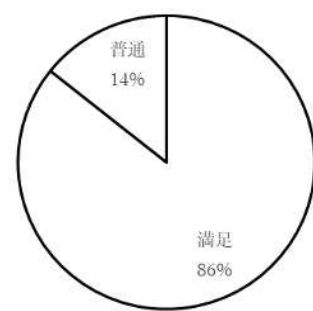
(2) 時間 (単位：人)

	回答数
ちょうどよい	34
短い	8
長い	0



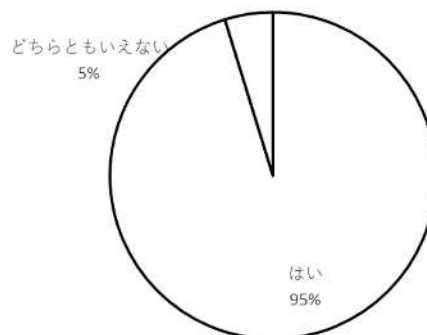
(3) 方法 (単位：人)

時間	回答数
満足	36
普通	6
不満	0



3. 次回も参加したいですか？ (単位：人)

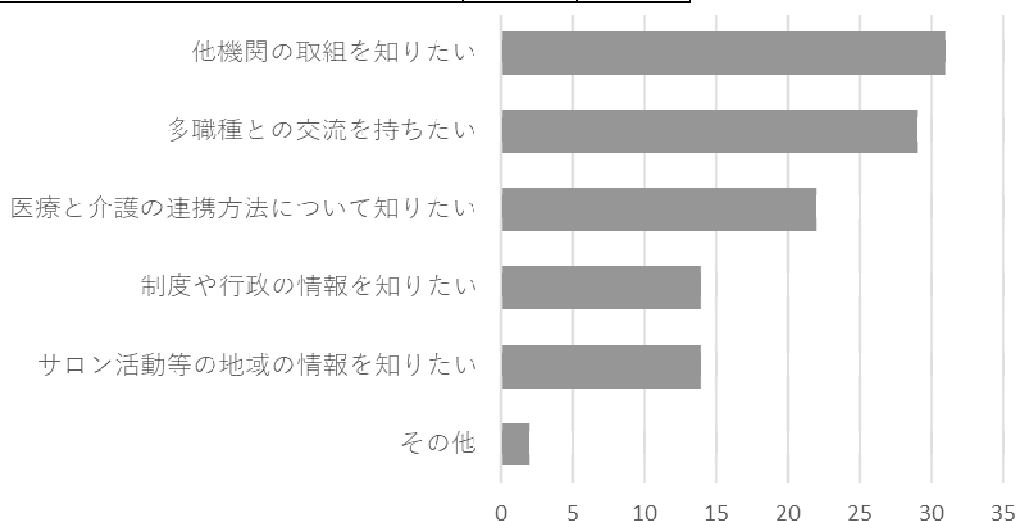
次回参加	回答数
はい	40
どちらともいえない	2



4. 参加目的 (単位：人)

参加目的	回答数	割合
他機関の取組を知りたい	31	74%
多職種との交流を持ちたい	29	69%
医療と介護の連携方法について知りたい	22	52%
サロン活動等の地域の情報を知りたい	14	33%
制度や行政の情報を知りたい	14	33%
その他	2	5%

その他の意見
 研修会等の情報収集
 領域を越えての情報・連携を持ちたい



5. 連携（医療・介護、多職種）についてどのような課題を感じていますか？

リハ協の中で共有したい、話し合いたいと思うことを教えてください。（自由記載）

- セラピスト以外の職種との交流
- 他職種や他の分野についての理解が乏しく、お互い理解することで患者さんに適切な案内が出来ると思う
- 在宅サービスの内容をもっと知りたいと思います
- 各サービスでの壁を感じる。医療、介護、福祉、多職種の中でいろいろな情報共有を行っていききたい
- 地域資源、地域福祉の課題の共有
- 事業所間での連携、事業所間での多職種連携でより良い協力がもっと出来れば・・・と思う。協力関係づくりでの取組などを聞いたり、話したい
- 実際の事例を通して、連携の在り方等、学んでいければと感じています
- どちらも相手からのアクションを待つ傾向があること。それによって結果、連絡し合わず連携が進まない等連携が必要なことは皆さん感じていると思うので、どんどん顔の見える関係を作っていけるようにしてほしい
- 医療、介護、多職種間で情報共有しやすいツールがあれば良いと感じます（利用者さんの情報など）
- 連絡方法、どのタイミングで連絡すれば良いのか
- 入・退院した際の連携、情報交換、退院時の介護サービス導入がスムーズに行かない
- 訪問リハをやっていて多職種との連携の難しさを感じています。「こんな時どうしたらいいの？」というケースがよくあります。症例報告会など出来たらと思います
- 食形態の調整を共通共有したいです

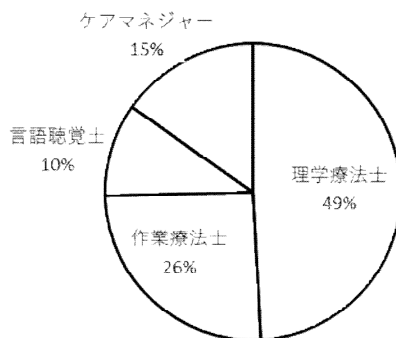
令和5年度東部リハビリテーション連絡協議会勉強会 まとめ

令和5年11月22日(水) 19:00~20:00

アシスト21 講堂

【参加数】 (単位:人)

職種	人数
理学療法士	29
作業療法士	15
言語聴覚士	6
ケアマネジャー	9
総計	59



※事務局他地域リハ課、区職員含む

【当日スケジュール(役割)及び内容】

19:00~ 開会挨拶

19:02~ 事例報告(九州鉄道記念病院 亀田さん)

九州鉄道記念病院の概要や退院時の連携手法について、ご紹介いただき、脊柱管狭窄症の独居女性の模擬事例を通してグループワークにつなげた。

19:15~ グループワーク(霧ヶ丘つだ病院 森さん進行)

模擬事例から以下の内容について意見交換した。

- ① 模擬事例の「その人らしい生活」を想像する
- ② (想像したうえで) どのような情報を送りますか?
- ③ (想像したうえで) どのような情報がほしいですか?
- ④ 情報をやり取りする中でどのような工夫が必要だと思いますか?

20:10~ 発表、まとめ(霧ヶ丘つだ病院 森さん)

20:30 閉会



写真① 事例報告



写真② グループワークの様子

◎配布物

事例報告資料、アンケート、福利用具プラザ北九州広報資料、ケース会議(50回記念シンポジウム)チラシ

【グループワークの発表内容】

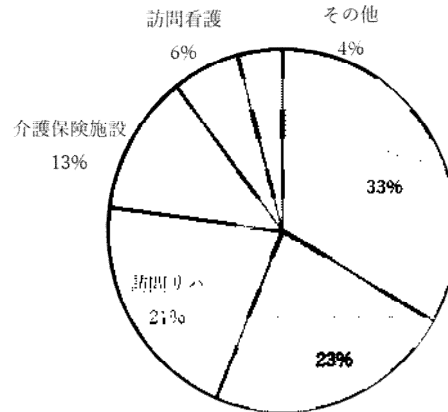
1. 模擬事例の「その人らしい生活」を想像する
 - ・その人の価値感、したいことを傾聴する姿勢が大切だと思う
 - ・バスに乗って買い物することが退院後実際にできるか、できない場合の代替え案
 - ・心疾患への負担
 - ・近隣の息子家族との関係性
2. どのような情報を送りますか
 - ・基本情報（ADL）、一日どのように過ごすか？など
 - ・認知面の変化
 - ・内服情報や食事などの栄養管理情報
 - ・コルセットの着脱（いつまでつけるか？夜間は外していいか？動作制限など）
 - ・課題を共有する意識があるといい（本人の性格が共有されるとありがたい）
3. どのような情報がほしいですか
 - ・今後の生活にリハビリ内容があっているか、リハゴールが実用的かどうか
 - ・転倒の原因、転倒場所や対策
 - ・入院前にできたことが退院後もできるか？
 - ・本人や家族の病識、理解度
 - ・リスク管理が本人のみでどのくらいできるか？
 - ・支援者が悪化の目安とできる情報
4. 情報をやり取りする中でどのような工夫が必要だと思いますか
 - ・事前にケアマネジャーにどんな情報が欲しいか確認する
 - ・紙面でのやり取りには限界がある。面会や家屋訪問の同行などに制限があれば電話で直接話すことや動画を送るなどができる関係性づくりが大切である。
 - ・退院後の情報を病院にフィードバックする
 - ・専門用語は使わない
 - ・退院後の在宅主治医との連携

アンケート結果

全体 回答率 48/52 (92%) ※参加者のうち行政職員を除く

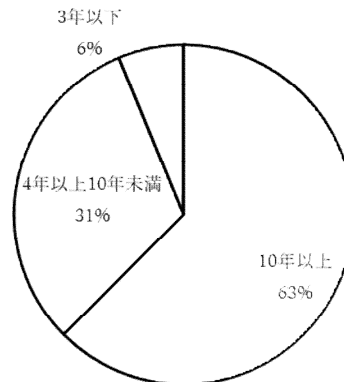
1. 所属

職種	事業所数
医療機関	16
居宅介護支援事業所	11
訪問リハ	10
介護保険施設	6
訪問看護	3
その他	2
合計	48



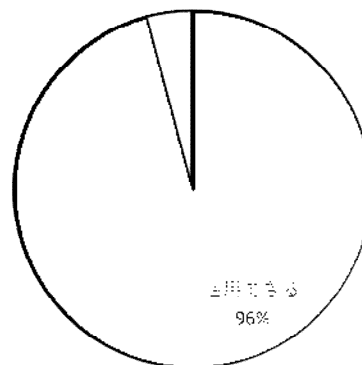
2. 経験年数

年数	回答数
10年以上	30
4年以上10年未満	15
3年以下	3



3. 今後の業務への活用度

次回参加	回答数
活用できる	40
未回答	2



活用できると答えた理由

○CMが知りたい情報を共有できた。

○病院側と在宅の連携の重要性を改めて考えられた

○リスクの管理、注目するポイントを伝えていること。情報提供が提供先別に内容が検討されていること。

○介護事業所情報提供書を入院時にもらっておく、入院中のカンファにCMが同席するなど連携しやすくする具体的な内容が聞けた。

○訪問リハビリさんからの視点はとても良かったです。自分が考え及ばない意見、自分の気付かない視点に気付くことができました

○他の施設の話がきけてよかった。他事業所、他職種の意見や考え方を知る事ができ、他職種から見た、感じている事や思う事が聞けた事が勉強になりました

○本人様との関係性を築き、本人らしさをいかせるようリハビリを行うことが大切という話が印象に残った

4. 参加目的 (複数回答可)

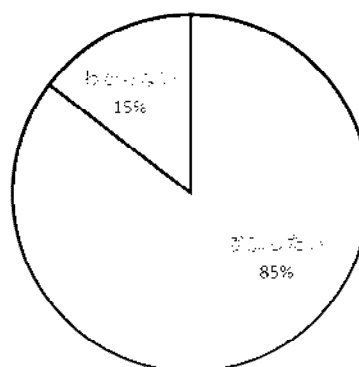
参加目的	回答数	割合
多職種との交流を持ちたい	33	69%
他機関の取組を知りたい	31	65%
医療と介護の連携方法について知りたい	27	56%
制度や行政の情報を知りたい	15	31%
サロン活動等の地域の情報を知りたい	8	16%
その他	2	4%

その他の意見

- 上司から勧められた
- いろんな職種の方の考え方、視点が知りたかった

5. 次回の参加意向

次回参加	回答数
参加したい	41
参加したくない	0
わからない	7



※新規会員登録に12名同意 会員数48名 (R5.11月現在)

6. インフォーマルサービスで、患者・利用者へ紹介・提供して良かった経験ありますか？

経験の有無	回答数
ある	17
ない	16
わからない(未記入)	14

【良かった具体的内容】

- サロンか地域(町内会)活動
- 訪問サービス(ゴミ出し、灯油、訪問マッサージ)
- 介護タクシー(階段介助がどのくらいできるか?安くできる場所)
- 福祉用具の導入前の事前の話や体験
- 福祉用具プラザ・難病の友の会・市民センター等の講座

【あると便利だと思う情報】

- インフォーマルサービスにつなげた事例
- 散髪、床屋さん出張サービス、家の中困りごと相談
- 在宅の方の使いたいサービスの多い順のランキング

7. リハ協の活動に期待すること、研修テーマや知りたい情報を教えてください。(自由記載)

- 課題に対するグループディスカッション
- 体交、ポジショニング、福祉用具の使用法
- がん末終末のリハについて(周知活動・症例発表・連携など)
- コミュニケーション支援について選定方法や実際の設定方法
- 本人様の要望を多事業所、他職種で協力で成功した事例紹介等
- 模擬、症例検討会、多職種で連携した事例で学ぶセラピスト以外の職種との交流